

知恵の樹

No. 167 2012. 4. 18

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

図書館評価の外部評価を終えて

町田市立図書館協議会委員 山口 洋

昨年度に引き続き、2回目の町田市立図書館の図書館評価とその外部評価が終わった。図書館評価とは、図書館法の平成20年改正により新たに加えられ、図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営改善を図るために行われる。評価の実施は努力目標であり、全ての公立図書館が行っている訳ではなく、実施している各館とも試行錯誤の最中である。中でも今回で2回目実施の町田市立図書館は、図書館評価を全館で取り組んでいる嚆矢に属し、図書館大会に2年連続で町田市立図書館の事例が報告されるように図書館界で注目されている。

ではその外部評価とは何か？ 図書館評価が適切か否か、当事者以外の視点で検討することである。そこで利用者の立場に立つ図書館協議会がこれを引き受けることは、図書館協議会が図書館運営に関して図書館長の諮問を受けたり意見を述べる立場にあることや、年間10回開かれ、図書館についての諸情報を得易く議論する素地が熟成されている点からも相応しいといえるだろう。

実際に外部評価を行ってみると、評価項目の立て方や目標、評価の指標など様々な疑問が浮かぶ。項目や目標等は各図書館が独自に設定しており、特に基準は存在しない。また数値に頼り過ぎるとサービスの本質を見失う恐れもある。

更に図書館側の下した評価と外部評価者の下した評価に隔たりが生じることも多く、外部評価者

の評価は厳しい。外部評価者側も、評価にあたって日頃提供されている情報以上に新たに資料収集や分析を必要とした。委員10名は4グループに分かれて各自検討を行い、メールや数次の臨時会合で討議し、昨年9月から6カ月かけて評価とコメントをまとめた。その結果は図書館HPで公開される。検討方法には今後の工夫が必要である。

しかし外部評価の経験は貴重でもある。評価によって公立図書館とは何か？ 改めて考えを深めることができ、また浮かび上がった課題をどうすべきか？ 協議会は何をすべきか？ 図書館運営やサービスに対する提言に役立つからである。

なお、評価がCとなった項目が見られる。設定した目標に達せず図書館自らCとしたものもあれば、外部評価者がCとした場合もある。しかしこれはダメという意味ではない。町田市立図書館全体の図書館サービスは、全国でも高い水準を示している。高い水準のなかで更により良い図書館を目指す上での評価である。敢えて厳しい注文もつけたが、それは、現状に満足せず、より良い図書館を目指そうとする現場職員の意欲に期待するからである。評価のための評価に終わらせず、次のサービス向上につながるよう、今後の図書館側の活動に注目し、適宜提案をしていきたい。そして、公立図書館を守り育てるために利用者＝市民として何が出来るのかということも忘れてはいけない。

(本会会員)

第一回 まちだとしょかん 子どもまつり ～本はともだち～

昨年町田市立中央図書館 20 周年記念事業として市民と図書館が協働で開催した「フェスタぶらりライブ ラリーin まちだ」を、子ども対象のお祭りとして引き継いでやりたいね、ということで、3月29日(木)から4月1

ホール

・「やってみよう！科学あそび」(115人)
CD盤でコマをつくる。幼児から小学高学年まで幅広い親子ずれの参加で、材料の追加その他であたふたと楽しい忙しさでしたがみな嬉々として作業に没頭している姿が印象的でした。片づけを手伝ってくれる子どもたちもいました。

・〈中高生を対象に企画〉朗読会
悪天候のこともあり子どもは3人で、あとは熟年世代が22人。古典の朗読を聞いた後、参加者に芥川龍之介の「トロッコ」のプリントが配られ一斉音読のあと会場にいる参加者全員が数行ずつ朗読するという試みがありました。終了後に録音したものが流され参加者は、自分の声に聞き入っていました。

日(日)の春休み4日間、図書館登録9団体が参加、実行委員会を立ち上げ、事務局を図書館が担うという形で、中央図書館で開催しました。子どもと本をつなげたい、もっと沢山のの人に図書館にきてもらいたい・・・との願いをこめての催しでした。(164号参照)

参加団体の会場割り振りも大変でしたが、折り合いつけて十分に活用できたといえるでしょう。

まつりは、まさに図書館と子どもを結びつけるのに効果がありました。町田の子どもたちが沢山参加できるようにこれからは、地域の図書館も一緒にこの催しをやりたいものです。(実行委員長 丸岡)

4F おはなしの部屋

・お話し会 たくさんの親子づれで賑わいました。天候が一変し、暴風雨の日も54人も参加。

・ブックトーク 雨がひどくなった午後、子どもの参加は少しでしたが、はじめてブックトークをきいて興味をもたれた大人が何人かいらしたようです。

「母と子のわらべうたあそび」 講師: 柚山明子さん / 主催: かえで文庫 子ども 45人、大人 80人

11:00～

初日のトップを受けて、いつもは成瀬センターのかえでの部屋で行っている「わらべうたあそび」を、中央図書館で行うのは、少々心配でした。PRもあまり出来ないまま、参加者がどのくらいか予想も出来ずその日を迎えました。ところが、時間前から次々集まってくる親子さんにはうれしい驚きでした。子どもより大人の数が多いいのは、1人の子どもに家族揃って参加したり、また乳幼児の会のボランティア

アの方たちの参加があつたりしたせいでしょうか。4Fの児童フロアから上手く6Fに誘導して下さった職員の力も大きかったと思います。小さい子から大人まで、ホールいっぱいにはたがってわらべうたを楽しみました。

講師の誘導で、小学生も数えうたなど参加してたっぷりわらべ歌の世界を楽しみました。(伊藤)

「絵本とおはなし」 おはなしの部屋 主催: NPOまちだ語り手の会

1部: 11:00～11:30(子ども9人、大人22人) 2部: 11:45～12:20(子ども14人・大人24人)

手あそび: 「あたまはてんてん」「めのみどあけろ」「つくしはつんつん」「おおきなたいこ」「すってんてれつくてんぐのめん」 / 詩: 「くまさん」まどみちお / 絵本: 『あさになったのでまどをあげますよ』荒井良二、『はじめてのおつかい』筒井頼子・林明子、『はなをくぐくん』ルース・クラウド、『はるのやまはザワザワ』村上康成 / 語り: 「ふしぎなたいこ」日本の昔話、「ひなどり」とねこ」ミヤンマーの昔話、「こすずめのぼうけん」エインズワース作、「くわす女房」日本の昔話

春休みで、日曜でもあり親子づれが来てくれました。小さな子もお父さんのひざの中で、安心して静かに耳を傾けていました。いつもは広く感じるおはなしのへやも、扉を開けて外の人にも聞こえるようにして、フロアを通る人も足を止めてきいていました。他の語りの会の方たちとの交流の場にもなりました。(伊藤)

鈴木まもる氏は、画家・絵本作家・鳥の巣研究家。「黒ねこサンゴロウ」シリーズや『ぼくの鳥の巣絵日記』など著書多数。講演は、ホワイトボードに次々と絵を描きながら楽しいお話をして下さった。以下に要約。

伊豆に引越した時、赤ちゃんができた。忙しくて奥さん(作家の竹下文子さん)が育児日記を書けなくなったので、僕が絵で描くようになった。こんな風でも子どもは育つんですよ、といったお母さんを安心させる育児書になると思い、出版したこの『みんなあかちゃんだった』は、初め、絵が小さ過ぎて読み聞かせに向かないから、と断られた。



この本は読み聞かせに向かないから、よくない、といったような、決め付けが世の中には多い。僕は、「あ」を書きなさいと先生に言われても、きちんとかけない子だった。絵のように書いて、先生にふざけていると思われた。きちんと字がかける子もいれば、絵にしちゃう子もいる。苦手なことはなかなか克服できないが、好きなことを伸ばせばいい。それが大事。好きなことを伸ばしていく内に苦手な分野も必要になって、できるようになっていくものだ。

伊豆のバサラ山で草刈をしていて鳥の巣を見つけ、それがきっかけで巣を集めるようになった。鳥の巣は鳥の家だと思っている人が多いが、卵を産んで育てた後は、用がなくなるから、持ち帰っても大丈夫。

鳥の巣は色々な形がある。(革張りの大きなトラックから、本物の巣が次々に登場！クイズ形式で巣の主を紹介)この巣は藪の中にポンと置いてあった。誰が作ったのだろう？調べたくて本屋に行ったが、鳥の巣についての本がない。地元の人や鳥の研究者に話を聞き、観察しているうちに、いつのまにか鳥の巣の博士になった。鳥の巣で、一番大事



なことは、誰にも教わらず、本能で分かって作っているところ。

外国の話。(スライドを映しながら)これは、南アフリカのシャカイハタオリの巣。電信柱に作っている。なぜ、このように(幅9m、厚さ3m)大きくなるのか？砂漠は日中暑い、巣の中は一日中25度ほどでしぎやすく、住居にしているからだ。人間は多分、この巣を見て洞穴住居から出て藁葺の家を作ったのだと思う。オーストラリアに住むニワシドリの一種は、巣ではなくあずまやを作る。なぜ、あずまやを作るか？鳥のオスは綺麗な羽を持ち求愛ダンスをするものもいるが、ニワシドリのオスは地味で、その代わりにあずまやを派手に飾ってメスを呼び寄せる。巣作りの行動の変形があずまやだと考えられる。

僕は絵本を作っていた。巣を見つけて巣が好きになった。絵本は子どもの心が育つように作るが、巣は鳥が子どもを育てるために作る。どちらも、小さい命を作ることが同じ。僕だけではなく、皆も同じ。色々な職業に就いているが、皆、人が幸せになるためのもので、命につながっている。僕の場合、大学をやめ、伊豆に行ったのは、ツバメが何かを求めて日本に来るように、自分が何か、知る為だったのだと思う。

次々と描かれる絵も楽しかったが、実物の鳥の巣もすてき！モンゴルから持ち帰ったという鳥の巣は柔らかな感触がたまらなかった。触れるなんてラッキー！楽しくまた考えさせられるお話、ありがとうございました。(町田の学校図書館を考える会/水越・市川)

「子どもの読書環境を考える熟議」 開催される

2011 年度、文科省スポーツ・青少年局青少年課は、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」を踏まえ、「子どもが自主的に読書活動ができるよう環境の整備と施策の総合的かつ計画的な推進を図るため」として「読書コミュニティ拠点形成支援事業」を立ち上げ、第3回目として開催した「子どもの読書に関わる様々な分野の人による開かれた[熟議]」をもって終了した。

この事業は、各地域で活躍する読書ボランティア団体が連携し、読書活動を通じた地域コミュニティづくりについて検討することを目的に、専門家による「読書コミュニティ拠点形成支援協力者会議 a」と、そこでの審議を経て選ばれた委員(全国から16の推進団体)による組織「地域における読書コミュニティ形成支援会議 b」の2本柱で昨年7月よりスタートし、aは6回 bは3回(aの偶数回にab合同)という複雑な会議で進められ、結局、まとまりのないまま終わったという感が否めない。

第1回会議(於:国際子ども図書館)については、本会報161号(p5参照)にて報告、第2回は、震災のため延期していた「子どもの読書推進フォーラム」開催に合わせて10/29(土)仙台の東北大学萩ホールにて開催されたが、その会議の冒頭に突如「推進会議ではなく意見交換を行う研修の場にする。依って第3回目の会議は、全国から

子どもの読書活動の推進 23年度予算額 43,500千円

【事業内容】 読書コミュニティ形成支援事業【新規】

(1) 読書コミュニティ拠点形成支援 33,886千円

新しい公共の担い手でもある読書ボランティアの活動を通じた地域コミュニティづくりのための場や情報の提供を行い、子どもの読書活動のより一層の促進を図る。

(2) 「子ども読書の日」の理解推進 9,614千円

「子ども読書の日」を広く周知するとともに、特色ある優れた取り組みを行っている民間団体等を表彰する制度を創設する。

様々な分野の人を集めて「熟議」をすることになった」と、「プレ熟議」とやらが実施された。そして熟議で得た情報を地域に普及し、ネットワークが出来ることを期待、そこでの現場の声を文科省の施策に活かしたい、という意向が話された。

この稿では、2/14(火)オリンピックセンターで3回目として行われた「子どもの読書環境を考える熟議」について簡単に報告をする。

10:30より奥村展三(文科省科学副大臣)の開会挨拶に続いて行政側担当者(文科省・スポーツ青少年局)による当日の配布資料の説明が行われたあと、岩崎れい氏(読書コミュニティ拠点形成支援事業協力者会議座長)による「子どもの自主的な読書活動の推進について」の基調講演が行われたが、残念ながら私は同時間に町田市立図書館で行われた第二次町田市子ども読書活動推進会議に出席したため、配布資料についてと午後からの熟議の報告に留めたい。(増山正子)

— 熟議 「子どもたちを本好きにするために、私ができること、みんなができること」 —

午後から始まった熟議には、全国から参加を希望した約160名が20グループに分けられて机ごとに着席(各グループには進行役(ファシリテーター)を1人配属)、まずオリエンテーションで、熟議とは、熟議のやり方・作法について、熟議のテーマ(上記)等についての説明。熟議の作法として

は、「聞く」に70%、残りが「考える」「伝える」ということで、とにかく人の意見をよく聞くこと。結論を急がない。なぜ今までそれが出来なかったのかも考える。一計画に反映されるよう、全て政策に取り入れると確か言ったと思うのですが—

- ① 実現可能性(現実性)
- ② 及ぼす影響(何が起こる)
- ③ 効果性(どんな役に立つ?)



図書館友の会全国連絡会MLより転載

そして、子どもたちを本好きにするために、私ができること、みんなが出来ることを、グループで話し合う熟議が開始された。

予算がない中で私たちに何が出来るかを考え、枚数に制限なくメモ用紙(ポストイット)一枚に一提案ずつ書いてどんどん出し、出し切ったところで、大きな模造紙に同類事項毎に分別し貼り付けていく。一番多い提案事項をそのグループの熟議の結果として貼り出し、参加者に2枚渡された小さなシールを、賛同するグループの模造紙に貼ってシール数で評価する。その結果、4グループの提案(アイディア)が上位に。

★1位 「大人の10分間読書」大人が読む姿を見せてほしい！ ・会社でも、学校(先生方)でも、読む姿を子どもに見せる。

★2位 子どもの本のスペシャリストの育成と配置。本が動き・人がつながる。

★3・4位(同点) ●子どもと本を結びつける人がある。学校図書館に専門的に関わる人、地域でのボランティアの関わり、本のある子どもの居場所に人がいることが大事。人を育てる、場づくり、親子を巻き込む／

●読書甲子園(中・高生を取り込む)。読書を通じて熱く戦うビブリオバトル(大好きな本・詩のボクシング・群読など)。個人競技から集団競技、多くの人に関わり支えることが読書推進につながる。読書が広くメディアにのるように、読書で参加する。

最後に、有松育子文部科学省審議官より、<「読書」についての熟議は今回はじめて。実践に基づいて様々な分野の人たちからたくさんのアイディアが出されたがその中でも人の大切さが重要視された。読書推進の施策の際には、こうした「熟議」を各地で進め、ネットワークを生かしてほしい>旨の挨拶があり会が閉じられた。

自費で遠方から参加した人も多く、広い会場は、子どもの読書環境をよりよくしたいという人たちの熱気に包まれていた。こうしたエネルギーがそれぞれの自治体で動き出すことを切に願う。

〈配布資料〉

1. 平成12年度からの子どもの読書量(1か月あたり)の推移グラフ(H23年6月調査)。小・中・高と進むにつれ、読書しなくなる傾向を示す。23年の不読率＝高50.8%、中16.2%、小6.2%。
2. 「子どもの読書活動の推進に関する法律」
- 3・4 全国子ども読書活動推進計画策定状況・・・広島県は100%策定しているが、全国の市町村レベルでは4割が未策定
5. 学校図書館関係の地方財政措置(下記)→地方公共団体では橋や道路になっているところも。
6. 平成24年度子ども読書の日記念「子どもの読書活動推進フォーラム」を4月23日(月) 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催。ゲストは紺野美沙子氏

「平成24年度からの学校図書館の地方財政措置について」

背景として・・・／思考力、判断力、表現力等の育成を重視する新学習指導要領が実施される中、「読書センター」「学習・情報センター」としての機能向上が必要 ・新学習指導要領では、新聞を教材として活用することが位置づけられており、学習を行うための学校図書館への新聞の配備が求められている ・図書整備とともに、児童生徒と本をつなぐ役割を果たす学校図書館司書の配備が求められている。

現状は・・・／平成19年度からスタートした「学校図書館図書整備5か年計画」において、毎年度約200億円、総額約1,000億円の地方財政措置が講じられ学校図書館図書標準を達成した学校の割合(H21年度末 小学校50.6%、中学校42.7%)は、増加したとはいえ十分な水準には達していない ・学校図書館に新聞を配備している学校は、小学校で約17%、中学校で約15%で、各学校で新聞を活用した学習を行うための環境が未整備である ・学校図書館担当職員を配置する学校は近年増加しており(H17年＝小学校31.5%、中学校32.5% H21年小学校44.8%、中学校45.2%)その必要性が強く認識され始めている。

平成24年度からの整備5か年計画

・学校図書館図書標準の達成を目指す

財政規模1000億円(単年・約200億円)

内訳＝増加冊数分 約430億円(86億円)

更新冊数分 約570億円(約114億円)

・学校図書館への新聞配備

財政規模約75億円(単年・約15億円)新聞1紙配備分

・学校司書の配置(学校図書館担当職員)

財政規模:約150億円 1週当たり30時間の職員をおおむね2校に1名程度配置することが可能な規模を措置

松の下(もと) 雪を背負いし 笠地藏
ほんのりの笑み 忘れじわれら (I・S)

愛すべき図書館人 齋川美江

今のさるびあ図書館が、まだ本館と呼ばれていた頃。ほっそりとして背が高く、メガネを掛けていて、本を片手に足早に館内を歩き、いつも難しそうな調べ物をしている松野さんという先輩がいた。「利用者に『わからない』なんて言葉を言わないように！」と言われ、わからないことばかりの新人の私は焦ったものだった。松野さんの机の上には地域資料なるものが沢山積み、何故いつも難しそうなことを調べているのだろうと思っていたら、『レファレンスの松野』と異名を取る人だと知った。それ以来、調べても『わからない』ことがあるとよく泣きついたが、嫌な顔ひとつせず(おどけて「エッエー!？」と言うことはあったが)、寧ろ嬉々として調べて下さった。パソコンなどない時代であったから、目録カードと活字の書籍と記憶を頼りに、コツコツと調べ上げていた姿が目につかぶ。一冊一冊の本の中身を、実によくご存じだった。

当時の図書館には、『レファレンスの松野』『～の〇〇さん』という柱が4本存在した。今ほど職員数が多くなかったので、4本も柱があると柱どころではなく、中々越えられぬ壁のような存在だった。もともと、自分がどんなにすごい先輩たちと仕事をしているか当時は知る由もなく、その本当の凄さがわかったのが図書館を離れてからだったというのは、何とも情けない後輩である。現在4本の柱は図書館から退かれたが、その中の1本が抜けてしまった。切ない。

松野さんは、私が縁あって図書館に戻った時の上司でもあった。昔のように、お酒を飲んで「エールを贈るう〜！」という姿は見られなくなっていたが、私にとっては変わらぬ先輩だった。当時共に働いた嘱託仲間は殆ど退職してしまっていたが、葬儀には何人かが仕事先から駆け付けた。裏表のない、心根の優しい方だった所以であろう。私がこの原稿を書く事になったと告げたら、旧知の仲間がメッセージを寄せてくれた。

『年齢も同じだった私にとってとても話しやすく、聞けば何でも教えてくれる知恵袋のような方でした。亡くなられたことは、残念でなりません。』(森さん)

『本への愛情だけでなく、人にもとても優しく平等でした。昔、嘱託でバレンタインのチョコを差し上げたら、とても喜んで下さった記憶があります。仕事はとても真面目だけれど、お茶目でかわいいところのある方でした』(市橋さん) 『図書館嘱託員の採用面接で初めてお会いして以来、松野係長は、私にとって「本の道」の師匠でした。まだまだお話ししたいことがたくさんあったのに、本当に残念です。』(院丸さん) 『悲報の知らせを聞いた時、まさかと思い悲しみで一杯になりました。図書館一筋で定年を迎えられ、これからという時に本当に残念でなりません。何年かだけでしたが仕事をご一緒させて頂いた事、光栄に思います。本当にありがとうございました』(鴨下さん) 『開館前の館内巡回の時、掲示物のチェックやサインの乱れなどを確認されていた係長のお姿が思い出されます。「中央図書館を作る時、賑やかな図書館を作りたいんだよ」と言われていました。沢山の人が訪れる活気ある図書館作りを目指されていたのだと思います。本当に沢山の事を教わりました』(谷原さん)

パソコンにばかり頼らずに、松野さん自身の中に積み上げてきた知識やノウハウを駆使してサービスを行う姿は、図書館人としての原点だったと思う。その姿勢を、忘れずにいたい。合掌。(会員)

松野さんの思い出 新藤直美

松野さんには、自分が新入職員として町田市立図書館に配属されてからずっとお世話になりっぱなしでした。仕事に対する姿勢や心構え、レファレンスなど、とても丁寧にご指導いただきました。新人の頃、図書館のことだけでなく、どんなことでもお聞きすればすぐに明確な答えが返ってくるので、なんてすごい方なのだろうと感じたことを思い出します。

内外の研修の講師にもひっぱりだこでしたが、毎

回、あふれるような教養と知識を背景に、しっかりしたご自分の考えを持っておられるのが伝わってくるお話をされました。

歓送迎会の席などでは、そのあふれる教養とユーモアで、場を盛り上げてくださいました。また、猫が大好きで、密かにご近所の猫を可愛がっているというほのぼのとした一面もお持ちでした。

もう松野さんのお話を聞けないと思うと残念でなりません。でも、きっとこれからも私達の心の中に松野さんの教えは生きていくと思います。(堺図書館)

今も鮮やかによみがえる思い出 吉岡 一憲

ここ数年はほとんどご一緒する機会もなかったが、私が若かった頃、特に就職して間もない頃は、よく松野さんに飲み連れて行ってもらった。そうした酒の席で、色々な知識、特に故事成語の意味などを教えてくれた。「『夜目遠目カサの内』という言葉があるけど、ここで言う『カサ』は差す『傘』ではなく、かぶる『笠』なんだよ」とか、「『灯台下暗し』というときの『灯台』は、海にある灯台ではなく、『灯明台(とうみょうだい)』のことなんだよ」といったことなど。そうしたことに疎い私は、自分の知識が(僅かではあったが)増えていくことに喜びを感じるとともに、松野さんの博識ぶりにいつも驚かされていた。

また、ある時はこんなことも語ってくれた。「アメリカのTVドラマの『ミステリーゾーン』の中にとっても好きなエピソードがあってね。本が大好きで、仕事

にも本を読んでいて上司に怒られてしまうような男の話。ある日、その男が地下室に籠って仕事をしていると、地上では核戦争が起こって、自分以外の人類が全て滅亡してしまう。地上に出て、そのことを知った男は「もう誰にも邪魔されずに、好きなだけ本が読める！」と大喜び。狂喜乱舞して走り出した途端に転んでしまい、眼鏡を壊してしまって、結局本が読めなくなってしまうというお話。この主人公がまるで自分のことのように「…。この話を聞いたときには「松野さんは本当に本が好きなんだな」と改めて思った。その後、買い集めた本を収納するためだけに家を1軒建ててしまったというとても信じられないような噂を聞いた時にも、「松野さんならそんなこともあるかもしれないな」と思った。

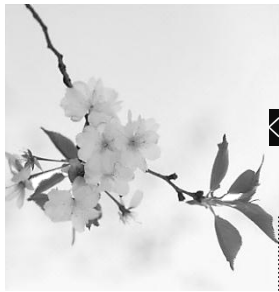
そんな松野さんが、定年退職した後には再任用もせずフリーの生活をすると聞き、そうだとすると、それまで買い集めただけで読めなかったのであろう大量の本を、思いっきり読みまくるのだらうと思っていたのだが…。昨年末、病院にお見舞いに行った際に「早く病気を治して、本を読まないで駄目じゃないですか」と言ったところ、「そうなんだよね」と力なく笑っていた。それから程なくしての訃報。

さぞかし無念だっただろうと思う。

松野さん、これまで本当にお世話になりました。ありがとうございました。そして、天国では誰にも邪魔されることなく、大好きな読書を心行くまで楽しんでください。(中央図書館/会員)

町田市立図書館人事異動(2012年4月1日付)

<減(退職、転出)> 田中英夫(市民文学館担当課長→学校教育部学務課長) / 山本明良(中央図書館奉仕係主査・定年→いきいき健康部) / 大野恵市(木曾山崎図書館奉仕係長・定年→中央図書館奉仕係(リクエスト))
<増(転入、採用)> 横須賀秀男(市民文学館担当課長←子ども生活部子育て支援課課長補佐兼子育て支援課整備係長) / 和賀井ゆう子(中央図書館奉仕係担当係長(ハンディキャップ) ←環境資源部付け担当係長兼南多摩斎場組合担当係長) <昇格・その他> 吉岡一憲(図書館担当課長(図書館サービス担当)←図書館課長補佐兼) 図書館中央図書館奉仕係長) <館内異動他> 芝崎知子(中央図書館奉仕係長←中央図書館奉仕係担当係長) / 高松昌司(中央図書館奉仕係担当係長(サービス)←中央図書館奉仕係担当係長(リクエスト)) / 作野隆広(中央図書館奉仕係担当係長(AV)←中央図書館奉仕係担当係長) / 野口修子(中央図書館奉仕係主査(整理)←中央図書館奉仕係主査(リクエスト) / 今井則子(中央図書館奉仕係担当係長(リクエスト)←中央図書館奉仕係担当係長(サービス)) / 下元奈々(中央図書館奉仕係担当係長(システム)←中央図書館奉仕係担当係長(ハンディキャップ・システム)) / 鈴木宏彰(中央図書館奉仕係担当係長(忠生図書館準備担当等)←中央図書館奉仕係担当係長(AV)) / 由良哲次(鶴川図書館奉仕係担当係長←中央図書館庶務係主査) / 菅谷繁男(鶴川図書館奉仕係長(鶴川駅前図書館準備担当)←鶴川図書館奉仕係長) / 新藤直美(木曾山崎図書館奉仕係長←堺図書館奉仕係長) / 二所宮泉(堺図書館奉仕係長←堺図書館奉仕係担当係長)



ひろば

〈例会報告〉 3/21(水)18:00~20:00

会報165号印刷 (16:00~)

伊藤、丸岡、桃沢、玉目

出席者:石井、伊藤、玉目、手嶋、
長谷川、丸岡、桃沢、守谷、
山口、山本

【図書館協議会】

3月議会・一般質問より

・雑誌スポンサー制度の課題と状況について→図書館側引き続き検討/
・絵本・育児書の宅配サービス→大分県立で実施、研究してみる。町田では別途年間200万円必要/
・図書購入選定について→佐賀県武雄市で市民が図書70%選定、町田では難しい。リクエストサービスで対応。

文教社会常任委員会内の質疑

・鶴川駅前図書館 職員配置、浪江さんの顕彰について→中央図書館 5階の浪江文庫の移転案浮上。「浪江さんは町田市図書館全体に影響を与えた人物なので、中央に残してほしい」「中央から全部鶴川に移すのではなく、鶴川にも別にコーナーを作るべきである」/
・川崎市との相互利用について/
・図書館配布資料「としょかんいちねんせい」事業の実施について→「お知らせ」についての意見:電話番号のみで地図やHPアドレスを載せていない。全校に配布済みだが、親切さが足りない。小学3年になると公共図書館について学ぶ機会がある/
・主任囑託の選考について→17名応募10名採用。

2012年度 第2回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

5月17日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算 60回)

- ・町田ゆかりの作家「小島烏水」佐羽悦子
 - ・「パンジ・クララスのオンドリ」大久保昭子 (インドネシアの昔話)
 - ・「鳥のみ爺」(日本の昔話) 佐々木令子
 - ・「おかあさんがふたり」(クストー作) 遠藤美子
- 直接会場へどうぞ! 無料 保育有
(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

【図書館評価について】

内部評価委員と協議会委員の意識の違いをどう埋めていくか/協議会の評価を図書館側がどう受け止めているのかわからない/評価をするだけでなく、図書館サービスの向上につながるよう道筋をたててやらないと時間と手間をかける意味がない/次年度にきちんとフィードバックされないと生産的でない/目標を掲げたときに個々の職員にどう目標をもたせるか/評価に気をとられて日常の業務に支障が出ては困る/立案・企画・段階から合意ないと、ずれが生じる/市民が見てわかりづらいのでは/今後も試行錯誤が続きそう/最近、図書館からの情報が少ない。

- 新年度の世話人を決めて欲しい。増山さん、代表交代を強く希望...次回に持ち越し。
- 会計より...今年度の会計を締めるので、立替がある方は請求して欲しい。(書記:長谷川・丸岡)

フランスでの公立図書館におけるプログラム/ アニメーション視察研修を終えて & あとがき

去る3月後半、当会の会員でもある辻由美さん(仏文翻訳家・作家・『図書館であそぼう』著)のコーディネートにより、パリとレンヌの図書館を訪ね、公立図書館での様々なプログラムや、中学・高校のメディア教育授業を見学、レンヌ図書館まつりの参加、また「スラム・スコレール(スラム=共有する言葉/18歳以上の子どもが自作詩を競い合う)」「文学クラブについて」の話を伺うなど、フランスにおける図書館政策の多様性と豊かさを学んできた。

そして、司書という専門性が確立された人たちがイキと自分たちの仕事に誇りと夢を持って取り組んでいる有様に接し、資料(本)の果たす役割、図書館の存在する意義を、改めて認識した。

文化施設がたくさんある中で、図書館が文化の中心になるためにはあらゆる努力をしなければならぬと、0歳児から大人のための魅力ある多彩なプログラムを提示し、市民の足を図書館へ誘おうと意欲的に取り組む司書たちの姿は魅力的だった。

日本でも同じような活動・催しを行っている学校や図書館はあるが、それらは縦割り行政のなせる業か単発的で他機関との連携があまり見られない。

本・資料を介して人が集まりコミュニケーションの輪を広げ知識を共有する場としての図書館、フランス全土、あるいは市・町の「共通したテーマ」の下、図書館の蔵書と関係した文化施設との関連したプログラムを組み、著者や書店をも巻き込み、豊かに楽しく自立した市民を育てるという教育機関としての図書館。

先日(4/14)、町田市生涯学習センターがオープンし、「生涯学習センターとは」というシンポジウムを聞いて、正に図書館の持つ機能こそ生涯学習を支えるものとして、その役割がますます重要視されるであろうと今回の研修で確信した。

本号に表記研修報告をということであったが、紙面の都合で詳しくは次号に。163号から編集を担当して下さったM²さん、ありがとうございました。身を引締め新たな年度をスタートしたいと思います。(増山=M⁴)